



# 布施だより

## 《 頑張っている仲間たち ～ 学年通信から ～ 》

毎週末、各学年の担当の先生方より「学年通信」が発行されています。その週の生徒たちの追究や活動から、感じたことを担当の先生が記述しています。生徒の良き表情を伝えようと写真に収め、時には、的確に伝える表現が見つからず苦吟されている時もあります。わずか1枚の通信ですが、その担当の先生の人柄と工夫が満載の発行なのです。そこで、先週号からの紹介です……。

### 【1学年】

#### ～ 躍動の体育集会 ～

心配された雨が、最後まで待ってくれて、体育集会にみんなで燃えました。中学生のエネルギーはすごいです。5分間飛び続ける大縄、男女声を合わせての挑戦、全力疾走のリレー、「ご老公」はとてものかないません。女子から男子へ、男子から女子へのバトンタッチがとても真剣で、また微笑ましい瞬間でした。

### 【2学年】

#### ～体育集会、クラスの絆を深める～

15日、天候が心配されましたが、体育集会が無事開催されました。体育の時間を中心にクラスごと、練習を重ねてきました。結果に対する思いはそれぞれですが、体育集会に向かう中で、クラスの絆を深めることができました。またクラス対抗でもあり、「他のクラスに負けたくない」という思いが、自分たちのクラスへの思いを強くしたと思います。体育集会だけでなく、学校生活の他の場面でも互いに切磋琢磨することで2学年全体が信頼される学年に成長してきましょう。

### 【3学年】

復活した体育集会、お疲れ様。思うようになったこと、ならなかったこと。それぞれ、これからの全て最後となる活動に生かせば良い。授業や普段の生活で、なかなか見せてくれなかった一生懸命頑張る姿。仲間を励ます姿。またそれに応える姿。最上級生としての立派な姿が見られ、心を動かされた。さあ、学年みんなで次に進むぞ。次は……。



体育委員会の皆さん、体育科の先生方が中心となり、運営してくれた体育集会の模様をそれぞれ担当の工夫で伝えてくれています。

素晴らしい時をありがとうございました。3年生諸君のマジ（本気）走りが、来年も、そしてこれから先もずっと受け継がれていくことを祈って。

- ～ 大縄の跳んだ回数を生徒以上に声を枯らしながら、叫び続ける姿があつて
- ～ 生徒の踏ん張りをファイnder越しに、記録し続ける情があつて。
- ～ 負傷した生徒の復帰を、みんなが笑顔で待つ度量があつて。
- ～ 勝った喜びを生徒と一緒にハイタッチとガッツポーズで祝う共感があつて。
- ～ 走り終えた生徒と肩を並べてクラスに引き上げる優しさがあつて。
- ～ 生徒同士の関わりと成長を信じて、黙ってじっと見守る自重があつて。
- ～ 職員室で談笑しながらも、敗けた悔しさを「悔しいな。次は見てろよ！」と唇を噛みしめる反骨があつて。
- ～ 互いに仕事を分担し、気づき、ひとつの成功に向かうチームワークがあつて。
- ～ 終えた後の活躍をすぐに学年・学級通信でたくさんたくさん伝えようとする熱があつて。

先生方の温かい眼差しに後押しされながら、生徒諸君が安心して躍動した半日でした

## 《 視野を広げる ～ 姉妹都市 クリアウォーター市訪問 ～ 》

2月22日～3月2日まで、長野市の姉妹都市であるフロリダ州クリアウォーター市を訪問した羽生智哉君が体験の様子を5月16日（金）に校内放送で伝えてくれました。

今回、アメリカへ行って日本と文化の違い・教育の違いを知ることができました。まず、文化はいろいろな違いがあつたけど、中でも食文化の違いが一番心に残っています。朝ご飯からピザが出てきたり、日本と比べると全体的にボリュームが多かったり、全体として味が濃いという感想を持ちました。初めて口にする食べ物もたくさんあり、今まで味わったことのない味を堪能することができたのが発見でした。

教育の違いについて述べます。授業と授業の間の準備時間は3分しかありません。しかも、1日の授業は7時間目まであり、集中力がもつのかなあと見ていました。ところが授業では発言以外はとても静かで、発言の際にもほとんど全員が手を挙げていて、意欲的に授業に取り組んでいました。このメリハリをしっかりとつけられるところがアメリカ人のいいところだなと思いました。

短い期間でしたが、日本とアメリカ2つの国の文化を知ることができ、それぞれの文化の良さや、ここをこうすればいいんじゃないか、ということを考えられるようになりました。このように視野を広く持って考えられるようにな



<ジョージ・クレテコス市長と>



<プラスバンドの授業風景>

ったのは、一緒に行っていたいただいた先生方、11人の仲間、そして西中学校の先生方やクラスのみんな、多くの人たちの協力や支えのお陰です。皆さんのお陰で国際交流を体験することができたのです。この貴重な経験に感謝して、これからの生活に活かしていきたいと考えています。

これからの時代を背負って立つ若者が、より広い世界に接して見聞を広げようとしています。

## 《 読書を広げる 》

朝読書については前号でも紹介しましたが、図書委員会諸君の活動が読書の広がりという意味づけてくれています。廊下には、書籍紹介について1枚1枚丁寧に書き込まれたカードが図書館前、学年の廊下に掲示されています。仲間の読書紹介に生徒達はしっかりと見入って、時価は何を読もうかなと楽しげに思案しています。

生徒たちは読書を通じて物語の世界に一心に目と耳を傾け、入り込んでいきます。中学生期の読書はとても魅力あるものになります。自分が経験できない世界や社会を、「絵本や小説・読み物」を通して追体験していく機会を、何千回・何万回と繰り返すことで、豊かな言語感覚と味わい深い人間世界を手にしていくことにつながっています。小説や絵本・物語を読むことの効用は多々あるのですが、私たちが若い人たちと、好きな小説について語り合うことで自身の生活に潤いを与えてくれることも、そのひとつです。

ご家庭でも、子どもさんと「小説や物語」を話題にされてみてはいかがでしょうか。若い人たちが、どれだけ自分の精神世界を背伸びして、豊かにしようとしているのか、驚かされるはずです。そうして、さらにひとつの「小説や物語」から、歴史・映画・音楽 等々、様々な分野に広がりを持つことの楽しみにも触れることができます。私たち大人自身も「小説や物語」に触れたい気持ちをさらに膨らませていくことにつながっていきます。

